

人の信用、商品の信用を築くというのを社是にしてやっている。我が社は、穀物の新しい価値を作って穀物を通じた「基本食の感動的価値の創造」を合言葉にしている。基本食の新たな価値を創造して人々の健康と豊かな食生活を実現するために、絶えず理念を浸透させていくことが大事だと思っている。

経営が厳しくなったときに、外部の知恵を借りることも大事だと思っている。目に見えない人材や技術力といった資産を大切にしていくこと。そしてそれを育てていくことが大事である。そのためには熱い思いを持って、追いつける必要があるが、そうした中で苦しい時に外部の支援があることが大事で、外部のノウハウを活かすことも必要になってくる。

山梨で自社の小麦粉を使ったうどんそばを作っていたが、うどんはヒットしたが、そばの売り上げが芳しくない。どうしたら売れるのかと思った時に、そばは五感で味わうもので、最適の立地で作らなければならないと考えた。そばの本場の信州に適地を探し、最高の品質のそばが生産され、名水が流れる御岳山の麓の開田高原に工場を建てた。企業もそれにふさわしい立地を選ぶことも重要で、おかげさまですぐに販売が軌道にのり、黒字経営となっている。

これからはくばくらしさ、オンリーワンの個性を磨くことが大事だと思う。その企業がなんたるかというアイデンティティを作ることを今でも強く考えながらやっている。

### 林 英夫 氏

武州工業株式会社 代表取締役

「環境力を改めて考えてみた時に、私は本当に環境力を発揮してきたのか」と疑問があるが、日本でものづくりを継続して行ってきた結果、環境にも優しくなったのだ



と思う。環境に優しいものづくりは武州工業の3つのものづくり理念、「道具を作る」「人に任せる」「人を信頼する」に裏打ちされている。

「道具を作る」とは、日本の伝統工芸では今も職人が自分で使いやすい道具を作ったものづくりをしている様に自社にて自分たちに必要最低限な生産設備を製作するという事。これは市場より購入する設備が武州工業にて生産する部品に対し設備仕様がオーバースペックかつ、大型であることに非効率を感じた為、実践していることである。国土の狭い日本で効率の良い生産性を確保する為にはコンパクトな省力化された設備を最適なレイアウトで設置することが重要であり、それが現在では「省エネ」として環境に貢献しているのだと思う。

また、生産設備を自社にて製作することは企業経営にも優しいことである。お客様の部品の仕様に合わせ、自社にてカスタマイズした設備は一般市場より同等スペックの設備を購入する場合と比べ、投資額を1/4にまで抑えることが可能である。設備の償却負担を自社の力を使って抑えることが日本国内での継続的なものづくりを成り立たせている源泉である。

「人に任せる」は、武州工業のものづくり理念を実践できる職人（多能工）にいち早くなってほしいとの考えを基づいた自主性を活性化させるための教育プログラムと呼べる。その一環として武州工業ではアルミのロウ付けと呼ばれる一般的には難しい（熟練を要する）とされる溶接を入社時の必修としている。アルミのロウ付けは武州工業においても難易度の高い加工技術である為、右も左も分からない新入社員でもやればできるという経験の場を与えることにより、その他の技術習熟や品質を守る活動、他部署とクロスファンクショナルへの積極参加を促す仕組みづくりも充実させている。また理念の継続に重要なのは「人材」といえる。

「人を信頼する」は、武州工業の生産方式における特徴の一つである「一個流し生産」と「3Z保証」と呼ばれる工程内品質保証の仕組みに集約さ